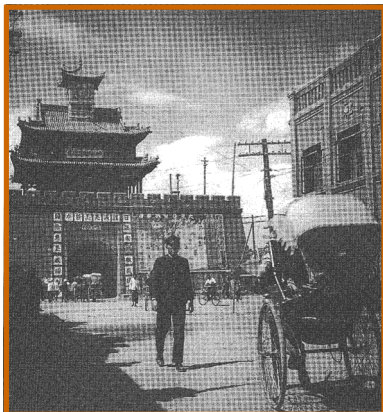


2014年度 シンポジウム

「書院生、アジアに行く！：東亜同文書院・大旅行調査研究の新たな地平をめざして」

と き:11月30日(日)／ところ:愛知大学車道校舎K1001教室



東亜同文書院(のちに大学)は、1901(明治34)年東亜同文会によって中国上海に創立。国際社会に貢献する人材養成を目的に、戦前海外に設けられた日本の高等教育機関としては最も古い歴史をもち、約5,000名を輩出しました。

1907年、数名の学生で編成した班で数ヵ月間調査する、書院生卒業前の一大イベント「大旅行調査」が5期生から開始されました。20世紀前半の中国大陸やその周辺を記録した「大旅行調査」のコース総数は30有余年で700本近くに及びます。その調査結果は、調査報告書や大旅行誌などにまとめられており、近代中国を知る貴重な史料です。

このたびは「書院生、アジアに行く！：東亜同文書院・大旅行調査研究の新たな地平をめざして」と題して、大旅行調査を様々な方向から検討するシンポジウムを開催します。東亜同文書院が展開した大旅行調査について、より広い文脈から新しい知見がもたらされ、今後の調査・研究に資することを祈念するものです。

時間	報告内容	報告者
13:00-13:10	学長挨拶 (佐藤 元彦 愛知大学学長)	
13:10-13:15	センター長挨拶 (三好 章 愛知大学現代中国学部教授)	
13:15-13:20	趣旨説明	加納 寛 (愛知大学国際コミュニケーション学部教授)
13:20-14:00	基調講演:『東亜同文書院大旅行誌』から見た満洲の日本人	荒武 達朗(徳島大学総合科学部准教授)
14:00-14:30	内蒙古自治区赤峰市街地の都市構造－1920年代と現在の比較－	高木 秀和(愛知大学大学院文学研究科大学院生)
14:45-15:15	清末民初の雲南事情と滇越鉄道について:東亜同文書院第八期生(1908年)米内山庸夫に着目して	増田 喜代三(愛知大学大学院中国研究科大学院生)
15:15-15:45	書院生、東南アジアに行く!! :東南アジアにおける大旅行調査ルートの分析	加納 寛 (愛知大学国際コミュニケーション学部教授)
15:45-16:15	『大旅行誌』の思い出に記された香港	塩山 正純(愛知大学国際コミュニケーション学部教授)
16:30-17:00	大旅行調査と台湾:その位置づけをめぐる	岩田 晋典(愛知大学国際コミュニケーション学部准教授)
17:00-17:30	『大旅行誌』の食に関する記載にみる書院生の心情	須川 妙子(愛知大学短期大学部教授)
17:30-17:45	総合コメント	藤田 佳久(愛知大学名誉教授)
17:45-18:30	総合討論(司会:松岡 正子 愛知大学現代中国学部教授)	

予約不要・入場無料



『大旅行誌』